

消防指令システムの高度化等に向けた検討会（第6回）

議事概要

1 日時

令和4年6月20日（月）10：00～12：00

2 場所

Web 開催

3 出席者（敬称略、順不同）

【委員】

藤井 威生（座長：電気通信大学）、木許 英昭（大分県）、小室 俊之（秦野市消防本部）、小山 宏（ちば消防共同指令センター）、高倉 弘喜（国立情報学研究所）、徳田 圭（小樽市消防本部）、野崎 孝幸（東京消防庁）、古屋 美智子（さいたま市消防局）、三木 浩平（総務省デジタル統括アドバイザー）

【オブザーバー】

牧 敦司（日本電気）、木村 俊次（富士通 Japan）、河野 健人（富士通ゼネラル）、高嶋 賢雄（沖電気工業）、川島 洋平（日立製作所）、平口 隆志（全国消防長会）

4 配布資料

資料6-1：標準インターフェイスに係る検討状況について

資料6-2：中間とりまとめ（案）

資料6-3：中間とりまとめ概要（案）

資料6-4：通信指令業務の標準的な業務フロー（案） ※

資料6-5：消防指令システムの基本的機能一覧（案） ※

資料6-6：「緊急通報に係るデータ通信」標準 IF 要件定義書（素案） ※

資料6-7：「緊急通報に係るデータ通信」標準 IF 基本設計書（素案） ※

参考資料6-1：消防指令システムの高度化等に向けた検討会 構成員名簿

参考資料6-2：消防指令システムの高度化等に向けた検討会（第5回）議事概要

参考資料6-3：主な委員指摘事項の反映状況

※構成員限り資料

5 議事概要

1. 開会

2. 議事

(1) 標準インターフェイスに係る検討状況

資料6-1について事務局から説明。主な質疑・意見等は以下の通り。

委員：自動車自動通報に関して、車種まで連携されるのであれば、例えば電気自動車からのレスキューマニュアルなども合わせて表示してはどうか。車種や年式によって抑えるポイントが異なるので、現場活動に有用と考えられる。

座長：その場合、マニュアルを現場隊員に連携する必要があると思うので、そのあたりの仕組みについても検討が必要。

座長：データ通信を用いた緊急通報では、通報者の身元が分からない場合も想定されるが、いたずらへの対策については考えているのか。

事務局：通報アプリ等の電話以外の通報手段を考える際には、例えばアカウントと電話番号を紐付けなければ通報できなくする等、運用面での条件設定が必要と考えている。どのような個人認証が必要かは、今後の検討課題と考える。

(2) 中間とりまとめ(案)について

資料6-3について事務局から説明。主な質疑・意見等は以下の通り。

委員：本中間とりまとめにおいて、これまでに何を検討できていて、今後何を検討すべきなのか、分かりやすく明示した方が良い。例えば、P6でSNS等に言及しているが、今回の標準インターフェイスではSNS等の活用を実現したということではなく、将来的にこれらを活用するための環境を整えたという意味だと思う。

委員：クラウド化など消防のシステム全体に関連する検討は、ネットワーク構成やセキュリティ対策などの要素も含め、全体像を示しつつ早急に進めることが重要。例えば、緊急通報に係るデータ通信としてやり取りされる画像・動画については、ネットワークの通信容量に合わせて解像度を決めていく必要がある。システムの全体像に関する検討を、標準インターフェイス等の取組に早急にキャッチアップさせて、標準インターフェイス等の検討内容に手戻りを生じさせないようにすることが必要。

委員：災害時、消防本部そのものが被災した場合の対応についても考えていく必要がある。試作デモンストレーションで用いたシステムでは、災害時にどの程度の機能があれば良いか等の検証は行えるのか。可搬型のシステ

ムを用いて業務継続する等は考えられるのか。

事務局：今回の試作デモンストレーションで構築したシステムは、あくまで動作を模したデモ機であり、災害時の対応等の検証には用いることが出来ないと考えている。一方で、今日では、可搬型の指令システムや消防署所用の小型端末など、災害に備えたバックアップ用の機器が様々製品化されており、各消防本部の判断でこれら機器を導入している状況である。

委員：データベースに係る検討について、説明にもあった通りすぐにデータベースを共通化することは困難であると考え。まずはデータ要件を定めるのだと思うが、データ要件とデータベース共通化の間にあるもう一段階として、消防活動において各消防本部間で共有すべき情報はなにかを整理し、必要最低限共通化すべき範囲を定め、その上で標準化された API を利用する等の部分的な共通化の取組があるのではないかと。

委員：総合検討として消防 OA 等をクラウド化する将来像が示されているが、セキュリティに関して、どこかの消防本部のシステムがセキュリティ侵害を受けた場合に、消防共用のクラウド環境に被害が及ばないような適切なセキュリティ対策について検討すべきと考えられる。

座長：モバイル網への接続 (P.17) について、実現方法②が有力であると説明があったが、このように考える理由は何か。現状で固定電話と消防救急無線を接続する際の方式に近いということか。

事務局：電話と消防救急無線との接続については、電話が指令制御装置と接続されているため、実現方法①のように指令制御装置を介して行っている。IP 無線と消防救急無線の接続に関しては、実現方法①では音声遅延や頭切れ等が発生しやすくなる恐れがあるという意見があるため、現時点では実現方法②がひとまず優れていると考えている。ただし、どちらの方法の方がコストの観点でメリットがあるか関係者間で意見が分かれているので、今後コスト面を含めた詳細検討を進めていく予定。

座長：検討状況を理解した。その上で、実現方式②の場合は指令システムと消防救急無線、IP 無線の 3 者が複雑に接続する形になるので、ベンダーロックインが起らないようにすることも考慮し検討を進めていただきたい。

座長：現状ではクラウドそのものに障害が発生するリスクは通信回線における障害以上に高いように感じるが、クラウドそのものが利用できなくなった場合の対策は検討しているか。

事務局：ご指摘の点は今後検討が必要であると考え。大規模災害が頻発する我が国の状況を考えると、災害時にも消防業務に不可欠なシステムについてはクラウド利用が難しいと考えている。どのような機能を大規模災害時にも継続して維持する必要があるか等、継続して検討を進めることが

必要と考える。

座長：通信回線の途絶時やクラウドが利用できなくなった際に、これらを復旧していく過程でどのように利用するかも含めて今後検討すべきと考える。

座長：資料の配布が直前だったこともあり、会議後から中間とりまとめに関する意見を頂いた方が良いと思うが、いつまでに意見提出すれば良いか。

事務局：ご意見等があれば、6月30日までに事務局へご連絡をお願いしたい。

座長：頂いたご意見を踏まえ、大きな変更がなければ当方で確認し、中間とりまとめとして確定させたいと思うが良いか。大きな修正がある等、内容によっては、改めて皆さんにご意見伺うこととしたい。

(座長一任とすることに異議なし。)

(3) その他

特段の意見なし。

3. 閉会

事務局より、第7回消防指令システムの高度化等に向けた検討会の日程は別途改めて調整すること、本日の内容について意見等があれば令和4年6月30日(木)までに事務局宛にご連絡をいただきたいことを連絡。

以上